

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
227	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Acute alcohol use and the risk of non-fatal injury in sixteen countries. 16ヶ国における急性アルコール飲酒と非致命的傷害の検討	
執筆者	
Guilherm Borges, Cheryl J. Cherpitel, Ricardo Orozco, Jason Bond, Yu Ye, Scott Macdonald, Norman Giesbrecht, Tim Stockwell, Mariana Cremonte, Jacek Moskalewicz, Grazyna Swiatkiewicz and Vladimir Poznyak	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2006 Jul;101(7):993-1002.	
キーワード	
アルコール飲酒、症例―クロスオーバー、救急部、疫学、危険性	
<p>要 旨</p> <p>(目的)</p> <p>アルコール飲酒と非致命的傷害の相対危険度 (RR) を結果の修飾因子となりうる救急部の位置とその背景要因を考慮しながら検討を行う。</p> <p>(方法)</p> <p>16ヶ国、28ヶ所の救急部を1984年から2002年に受診した非致命的傷害11536人を対象に非致命的傷害に及ぼす急性アルコール飲酒の影響のRRを症例―クロスオーバー手法を用いて検討を行った。国による一致度、RRの違い、国による寄与度の違いを検討するためメタ解析を行った。対象者の大半は男性(65%)であり30歳以上(50%)であった。受傷前6時間の間に飲酒していた者をアルコール暴露者とした。</p> <p>(結果)</p> <p>受傷前6時間の間に飲酒していた者は21%であった。非致命的傷害のRRは受傷前6時間の間にアルコールを飲酒していた者では5.69(95%CI: 4.04-8.00)であった。RRの範囲は最低のカナダで1.05であり、最高の南アフリカで35.00であった。上記のようにRR範囲は施設間で一定ではなく、より危険な飲酒パターンをする者が受診する施設ではより傷害の危険性が高かった。</p> <p>(結論)</p> <p>急性アルコール飲酒はほとんどの施設で非致命的傷害の危険因子であった。一般住民、特により危険な飲酒パターンの国で、に注意を呼びかける施策が望ましい。</p>	